

「北海道奨学金ネットワーク」設立宣言

わが国では6人に1人の子供が相対的な貧困状態にあると言われ、大きな社会的問題となっています。そうした経済的な苦境は進学を目指す高校生や現役の大学生も例外ではありません。奨学金は高い授業料や学習費を賄えない、そうした若者たちが学び続ける上では不可欠の支えになっています。しかし、その大半を占める日本学生支援機構の奨学金は貸与型であり、社会人になってから返済を求められます。奨学金を借りた大学生の実に2人に1人が数百万円にも上る奨学金の返済で苦しんでいるとされています。

問題改善のため明るい兆しも見えてきました。給付型奨学金制度の導入を定めた日本学生支援機構法改正法が3月末、国会で可決成立し、日本で初の給付型奨学金制度が導入されました。しかし、「全国の高校に1人ずつ」という極めて限られた内容で、残念ながら問題の本質的な解決はまだ遠いと言わざるを得ません。

私たちは、北海道で奨学金制度にかかわる団体・個人として昨年春から会合を重ね、組織・地域の壁を越えて奨学金問題に取り組み、若者の学びと成長を社会全体で支えることを確認し、本日、「北海道奨学金ネットワーク」を設立いたしました。

今後、さらに多くの団体・市民と手をたずさえて相互の情報交換に努めるとともに、加盟団体の奨学金制度の充実を図り、広く道民にこの問題への理解と協力を呼びかけ、前途ある若者を苦しめている奨学金問題の解決に資することを願っております。

教育は人の基礎をつくります。その人が地域、さらには広く国や世界をつくると考えると、教育が誰にも平等に行き渡るよう努めることは、私たち大人、広くは社会の責任であり、義務です。私たちは未来を支える人材育成のため、今後も最大限の努力を傾けるとともに、若者の学びと成長を社会全体で支えることを確認し、ここに「北海道奨学金ネットワーク」の設立を宣言いたします。

2017年・平成29年5月18日
北海道奨学金ネットワーク設立総会